

新年あけまして

おめでとうございます！

皆さんは、どのような年末年始を過ごされましたか？

私は昨年 12 月 25 日に福島県の郡山にて今年最後のコンサートを終え、26 日から札幌の実家で、父と妹と幸いな年末年始を過ごし、今日は大阪にやってきました。明日、いよいよ関空からドイツへ帰ります。



昨年は、ひとつひとつのコンサートにおい

て、素晴らしい主のみわざを見せていただき、感謝にあふれる奉仕をすることができました。健康も守られました。主は 多くの方々を救いに導いてくださり、信仰者には再献身の思いを与えてくださいました。主が喜んでくださっていることを感じ、仕える私の方が慰めと元気をいただいたコンサートもありました。いくつかの心に深く刻まれる出会いもありました。

たくさんの練習を積み重ね、心合わせて賛美を捧げてくださった、ピアノ伴奏の佐伯尚子さん、野田常喜さん、福島英子さん、山越淳子さんに、心から感謝いたします！また、祈りとともにたくさんの準備をしてくださりました各コンサートの主催団体、主催教会の皆様、世界各地で祈り支えてくださった皆様、関東祈り会の皆さん、共に仕えてくれた AKMM スタッフの皆さん、ほんとうにありがとうございました！

●イエス様の椅子



昨年のクリスマス・コンサートでのことです。コンサートが始まる前に、ふとステージを見ると、スクリーンの真下にひとつの椅子が置いてありました。どうしてステージの上に椅子が置いてあるのだろう、とピアニストも私も不思議に思いました。一瞬、もしかすると、スタッフの方が私のために置いてくださったのかもしれない、と思いました。そのコンサートでは、数日前から教会で音合わせをさせていただいたのですが、毎日 4 時間も 5 時間も音合わせをするものですから、リュウマチの持病がある私

は、足が疲れる度に、椅子に座って歌いました。それを見ていたスタッフの方が、気をきかせて、もしやの時のために置いてくださったのかもしれない、と思いました。

この日のコンサートは、主の深い愛と御霊に包まれた、何か特別のコンサートでした。そして、コンサートが終わってから、ある方がこう言われました。「イエス様があの椅子に座って、喜んで聞いておられる姿が見えるようで、涙があふれて仕方がありませんでした」。コンサート前日から主のご臨在に触れ、音合わせをしていますが、一緒に祈るときも、コンサートでも涙が止まらなかったピアニストの山越さんが、そのコメントを聞いて、「ああ、あの椅子はイエス様のためだったんだ、そうだったんだ、そうだったんだ」と言って、また顔をくしゃくしゃにして泣きました。

以来、まずインマヌエルの主をお迎えし、このイエス様に、私の心の王座に、そしてコンサートの最上席に座っていただいて、主に喜んでいただける真心からの賛美を捧げさせて下さいという祈りをもって、コンサートに臨ませていただくようになりました。

●お知らせ

ー「工藤篤子と行くヨルダン・イスラエル賛美の旅」は、今月も引き続き参加申し込みを受け付けています。

詳しいことをお知りになりたい方、参加を申し込まれる方は、事務局にお問い合わせください。皆様のご参加を、心よりお待ちしております！

日時：2009年2月24日(火)～3月6日(金)

定員：25人

費用：368,000円（付加燃費と出国税は含みません。）

ー 昨年11月20日に行われたチャリティー・コンサートの収益金416,683円を、12月9日に、ミャンマー支援活動をしておられる斎藤一美さん宛てに振り込みました。その後、斎藤さんから、年末に献金が無事ミャンマーへ届けられた連絡をいただきました。ご協力くださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。

今年の抱負は、と書きたいところですが、ドイツにて、しばらく主のみ前に静まり、心を探っていたが、今一度初心に帰る時とさせていただきたいと思っています。

まずは、「主の前に静まる」「悔い改め」「初心に戻る」「はじめの愛に戻る」を、年頭のモットーにし、新年の活動に備えさせていただきたいと思っています。

「あなたこそ私の避け所、生ける者の地で、私の分の土地です。」（詩篇 142:5）

日本も世界も大変な状況になりました。この苦難を通して、ひとりでも多くの方が、真の救い主であるイエス様を見出すことができますようにと心から祈ります。

私たちにとっても、主の真実と恵みに触れさせていただく一年となりますように！

主の祝福を、心からお祈りしています。

工藤篤子